治療

慢性閉塞性肺疾患

Medisere Drill

(Chronic Obstructive Pulmonary Disease: COPD)



以下の()に当てはまる語句を答えよ。

概念

気道閉塞により呼吸困難を起こす疾患の総称。主として(①) と慢性(②) を指す。現在、わが国で急速に死亡者数が増加している疾患である。

成因

(③) が最大の危険因子である。タバコ病といわれるほど肺癌とともに (③) と関連が深い。(④ 若年・高齢)の(⑤ 男性・女性)に多い。

症状

- ・咳嗽、痰
- ・(⑥) 時呼吸困難:階段昇降など体動によって出現し、増強する呼吸困難。
- ・(② 右心・左心) 不全: 肺毛細血管の破壊により、肺動脈圧が上昇して生じる。 肺性心とも呼ばれる。

治療

すべての患者に、(⑧) 指導、インフルエンザ・ワクチン接種を行う。最大の原因は(③)であり、(⑧)は治療の基本である。また、インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンによる呼吸器感染症予防も重要である。本疾患の変化は不可逆的であるため、気管支拡張薬(抗コリン薬、長時間作用型 β_2 刺激薬)を用いた対症療法が中心である。

医薬品	特徴・副作用
1. β₂刺激薬 (吸入・テープ) インダカテロール サルメテロール ホルモテロール ツロブテロール	・インダカテロール、サルメテロール、ホルモテロールは、長時間作動型 eta_2 刺激薬(long-acting beta2-agonist:LABA)である。 ・中等症以上のCOPDにおいて、長時間作動型 eta_2 刺激薬(インダカテロール)は、吸入抗コリン薬とならぶ第一選択薬である。 ・副作用:頻脈、不安、悪心・嘔吐、振戦、高血糖など。
2. 抗コリン薬(吸入) イプラトロピウム グリコピロニウム	・COPDの第一選択薬である。 ・排尿困難を生じる(⑨)、(⑩) には 禁忌である。

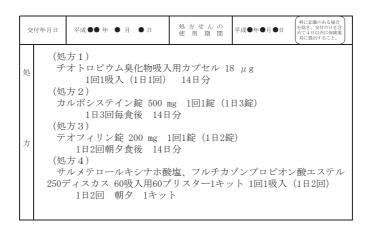




以下の症例に関する記述の正誤を答えなさい。

症例

68歳男性。労作時の呼吸困難を主訴に来院した。以下の処方による治療を受けることとなった。



- 1. 本患者にはインフルエンザワクチンは投与禁忌である。
- 2. 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 最大の原因は喫煙であり、禁煙が治療の基本である。
- **3.** 重症のCOPDでは左心不全を生じる。
- 4. 吸入抗コリン薬は前立腺肥大症を合併する患者に積極的に投与される。
- **5.** サルメテロールキシナホ酸塩、フルチカゾンプロピオン酸エステル吸入後は、薬効が減弱する恐れがあるため、うがいをしないよう指導する。

